



涙と挑戦の東京



国	籍	インドネシア
職	種	ビルクリーニング
実習実施者		株式会社ピークルーエッセ
監理団体		広昌会協同組合

ファドルン
FAD LUN

私は東京で働き始めて、もうすぐ三年になります。日本へ来たとき、期待と不安が入り混じり、これからの生活に大きな覚悟を持っていました。知らない言葉や文化の中での生活は簡単ではなく、毎日が挑戦の連続でした。毎朝四時に起きて一日が始まります。弁当を作り、シャワーを浴び、静かな時間の中で祈りをしてから仕事に向かいます。まだ暗い空を見上げながら、「今日も負けない」と自分に言い聞かせています。仕事はビルの清掃です。一日に一つだけでなく、二つ、三つのビルを回ることもあります。床を拭き、ごみを集め、トイレを掃除し、見えない場所まで丁寧にきれいにします。誰にも気づかれない仕事かもしれませんが、利用する人が気持ちよく過ごせるように心を込めて取り組んでいます。ビルからビルへ移動する電車の中は、私にとって大切な休息の時間です。短い時間でも目を閉じると少し体が楽になります。窓の外の景色を見ながら、遠く離れた故郷や家族のことを思い出すこともあります。冬の厳しい寒さや春の花粉で体調を崩すこともあります。それでも、自分で選んだ道だからこそ、途中で諦めたくありません。どんなに苦しくて

も、一歩ずつ前に進み続けたいと思っています。仕事だけでなく、日本語の勉強も続けています。特定技能二号を取得し、日本で長く働くことが私の目標です。疲れている日でも、少しずつ前に進むために努力を続けています。夜になると、家族のことを思い出します。母の優しい声、父の言葉、そして弟との思い出が心に浮かびます。体調を崩したときは、母の温もりが恋しくなります。時には涙がこぼれることもあります。しかし、その涙は悲しみだけではなく、ここまで諦めずに歩いてきた自分の証だと思っています。東京での生活は決して楽ではありません。それでも私は、夢と家族のために歩き続けます。涙の先にある未来を信じて、これからも挑戦し続けていきます。私はまだ途中ですが、必ず前に進み続けます。将来の目標について言えば、特定技能二号に合格することだけがゴールではありません。日本で身につけた清掃の技術や、どんな状況でも諦めない精神を、いつか母国の若い人たちにも伝えたいと考えています。自分の経験が、誰かの勇気になれば嬉しいです。日本での生活は、私を強くしてくれました。朝の静かな祈りの時間も、電車の中で過ごす休息も、すべてが今の私を支える大切な一部です。家族と離れて過ごす時間は寂しいですが、その分、家族の絆をより強く感じる事ができています。最後になりますが、私を支えてくれている日本の皆さんと、遠くから見守ってくれている家族に心から感謝しています。困難にぶつかったとしても、自分の可能性を信じて、一步一步、着実に進んでいきます。私の挑戦は、これからも続いていきます。私は日々の努力を大切にしながら夢に向かって一歩ずつ前に進み続け必ず自分の目標を達成したいと強く思っていますね。